数物・電子情報系学科大ゼミ（同窓会支援企画）「先輩からのメッセージ」
（社会で活躍する OB/OG から学生の皆さんの将来に向けた提言）

3 月に昨年度の 4 年生が卒業し，これで旧工学部電子情報工学科が終了しました．本年度からは全ての学年が数物・電子情報系学科になり，3 年生までが学生会員としての同窓生となります．そして卒業生は当然，同窓会員なので，現在の 4 年生だけが同窓会に入会していない狭間世代となりました．この大ゼミから始まった近年の同窓会企画は，新入生合宿，同窓生交流会，就活支援セミナーへと拡大していく予定です．また一昨年度スタートした WEB システムも，少しずつ利用が増えてきました．これらの流れは本学科にとどまらず，理工学部や大学全体の同窓会に波及しつつあります．

三上哲郎さん（1975 年卒，CASL）「グローバル化にどのように対応すればよいか」── 昨年度で日立電線の役員を退任され，自ら Challenge & Smile Laboratories（http://www.casl.jp）を起業した同窓会長．前会長の谷さんのときにもお願いしたのですが，ピンチヒッターとして急遽，二回目のご登壇をお引き受けいただきました．退任して「サンデー毎日」と思っていたのに，新会社の多忙でむしろ「マンデー毎日」に．会社名にもなっているスマイルとチャレンジをバランスさせることで人生のストレスがコントロールできる！という最近の会長のトレードマーク的持論を展開していただきました．

松本直也さん（2002 年卒，浜松ホトニクス）「Photon is our business」── 光デバイスと医療応用などを研究開発している松本さん．有休取得率が高く，離職率が低く，スーパーカミオカンデやヒッグス粒子など三つのノーベル賞に絡む個性的な自社をご紹介いただいた後，ご自身の研究の話に．実は筆者が企画した日本学術会議主催のシンポジウムで国内 90 機関に発表をお願いしたとき，同社の代表として推薦されたのが松本さん，第一線で活躍中です．フーリエ／テーラー／マックスウェルなど，基礎をもっと使えるようになって！できないと言わずやってみて！など学生へのメッセージ．

田中公康さん（1992 年卒，NTT コミュニケーションズ）「通信業界で必要とされる人材」── 就職面接の際に会社の問題を指摘し，面接員と喧嘩になりながらも採用されたという田中さん．自分が主導した IX プロジェクトでは周囲に理解されずつらかった，これを乗り越えられた経験が今の自分を支えてくれている，と熱く語っていただきました．また人事課での苦労話はなかなか貴重．一人の採用決定は 3 億円の買い物をする責任と同じ！昇格／異動／退職／懲戒など，相手と悲喜を分かち合う大変な現場です．次の同窓会企画：就活サポートでもご協力いただけそうです．

齊藤祐さん（2005 年卒，島津製作所）「医用 X 線診断装置と先端アプリケーション」── レントゲンの翌年に X 線を開発したという自社の歴史からスタートする齊藤さん．自ら研究開発に従事する CT，MRI，超音波など様々な医療用画像装置についてわかりやすくご説明いただきました．仕様決定，製作・評価，規格試験，臨床試験から展示会まで，一連の業務のご紹介に加え，徹夜の試行錯誤で難局を乗り切った興味深いドラマもお話いただきました．いろいろな知識を得た方がいい→いつか役に立つ，巻き込め／巻き込まれろ，English： 勉強は今，などなどメッセージも明快です．

保坂岳深さん（1980 年卒，NEC）「ICT業界に身をおいて」— 同窓会の役員を務める保坂さんはNEC でも執行役員の重責．同社見守りロボットの記者会見後に駆けつけてくれました．高度成長→バブル→失われた20年→復活という社会の変遷，岐路に立ったとき人のつながりが貴重になる，困ったときに四六時中考えると解が出てくる，重要な局面のスピーディーな決断が話を次のステップに進める，1 勝 9 敗でも負けが人を育てる，当事者意識があると情報が集まって運が上がる，などなど，経験豊富な先輩，大企業経営者としての多角的なお話を聞くことができ，我々教員も非常にためになりました．

中野雅之さん（1990 年卒，KDDI）「母校との共同研究を通して」 — 屋上から棒が突き出た大学会館の写真に「さて何が見えるでしょう？」と質問から入る中野さん．アンテナ開発で大活躍されています．携帯電話初期の重要な発見や，アンテナが消えた近年の携帯電話に役だつファントム（人形）の開発など，産学共同研究の成功例をご紹介．さらに実験の大切さ，実験や実証の正しいやり方を学生に伝える講義形式に．まず実験してみる→理論を組み立てる→追求する→実証する，あるいは，再現性→記録→統計！など，昨今の社会問題の後ではさらに貴重なお話だったと感じられます．

杉山実さん（1993 年卒，東急電鉄）「電子情報系の専門知識をより広いフィールドに活かす」 — 鉄道会社は鉄道ばかりやっているわけではありません，と様々な事業をご紹介いただいた杉山さん．クランベリーモール，ヒカリエなどを例に，電気屋，鉄道屋というより，駅作り，街作り，ビル運営に関わる建築屋のお話をしていただきました．実は昨今，ビルの省エネ電機設備，空調・衛生，耐震技術は脚光を浴びている分野だとか．また大学入試では合格圏内の国大へ，つぶしが利く電気屋志望，受注者より立場が上の発注者になりたい，など軽妙な本音トークでも楽しませていただきました．

小南学さん（2006 年卒，セコム）「誰もが安心して暮らせる社会を目指して」 --- 本企画で歴代最若手，小南さん．ジブリの森美術館にほど近い研究所で「快適さや便利さを生む安心・安全とは何か」，「安全でも安心とは限らない」．．．などと日々，考えているそうです．昨今の防犯カメラ網，顔パスを可能にする最新の顔認識や人物追跡，小型監視ロボットなど，ビデオを使ってを面白くご紹介いただきました．また若い先輩から学生へアドバイス．CEATEC はためになる，自分をよく知ってもらう努力，挨拶と感謝の気持ち，段取り力，そして最後に「保険に入って！」と，さすが安心・安全の専門家．

7 年目を迎えた本企画ですが，この年度の特徴は，対象が初めて学生会員としての同窓生になったことです．数物・電子情報系学科の中では，主に必修として出席を課している電子情報システム EP 向けの企画となっていますが，情報工学 EP 所属の学生会員に対しても，この講演会は常に開放されています．大学での過ごし方，将来の就職や社会生活の参考になるので，ぜひ多くの学生に出席してもらいたいと思います．また，7 年目にして初めて男性ばかりの登壇になってしまいました．すみません．男女共同参画が叫ばれる昨今，次年度は女性をたくさん入れたいと思います．同窓生の皆様にはぜひご協力いただきたく存じます．

（1985 年卒馬場俊彦（本学教員））